

読響

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

めぐり逢い

数々の巨匠のもと

ブルックナー演奏史に名を残してきた読響。

32年前に一度だけ来日した名匠も

同じくこの作曲家に魅せられてきました。

ともにブルックナーと向き合い

その神髄に迫ってきた読響とヴェンツァーゴ。

ついに両者の初共演が実現、

新たなページを刻みます。

©Alberto Venzago

MARIO ^{Conductor}
VENZAGO

指揮

マリオ・ヴェンツァーゴ

BARBER: Violin Concerto, op. 14

バーバー：

ヴァイオリン協奏曲 作品14

BRUCKNER: Symphony No. 3 in D minor, "Wagner" (3rd version)

ブルックナー：

交響曲第3番 二短調「ワグナー」〈第3稿〉

Subscription Concert No. 597

Wednesday, 8th April 2020 19:00 Suntory Hall

読売日本交響楽団 第597回 定期演奏会

2020 4/8 水 19:00 サントリーホール

S¥7,600 A¥6,600 B¥5,600 C¥4,100

読響チケットセンター 0570-00-4390

(10時-18時・年中無休) <https://yomikyo.or.jp/>

SIMONE
LAM SMA

Violin

ヴァイオリン

シモーネ・ラムスマ

ストラディヴァリの艶やかな音色で
魅了するオランダの名花

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
協力：アフラック

©Otto van den Toorn

名匠ヴェンツァーゴが32年ぶりに来日 得意のブルックナーを本邦初演!

鈴木淳史(音楽評論家)

マリオ・ヴェンツァーゴ 指揮

ブルックナー演奏で高い評価を得ているスイスの名匠。現在、スイスのベルン響の首席指揮者兼芸術監督などを務めている。チューリヒ生まれ。ウィーン国立音大でハンス・スワロフスキーに師事。これまでにヴィンタートゥール・ムジックコレギウム、ハイデルベルク市歌劇場、グラーツ歌劇場、バーゼル響、バスク国立管、イエーテボリ響などの音楽監督を歴任。2010年から14年まで、王立ノーザン・シンフォニアの首席指揮者を務めた。ベルリン・フィル、ボストン響、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、フランス国立放送フィル、ロンドン・フィルなど世界各地の楽団に客演している。録音も数多く、特にCPOレーベルからリリースしたブルックナーの交響楽全集は、国際的に高い評価を受け、日本でも話題を呼んだ。1988年のN響への客演以来、久々に二度目の来日を果たす。

©Alberto Venzago

ようやくヴェンツァーゴのブルックナーが聴ける。

彼の指揮によるブルックナー・チクルス録音には、衝撃を受けた。これまで耳にしたことのない、そのフレッシュな響きに。その驚異的な透明感。音の重ね方は水彩画のように繊細。フレージングは意外にも即興風で、それが躍動するリズムに乗り、滑らかに流れ出す。

ブルックナー作品は、荘厳な大聖堂に例えられる。その建築を仰ぎ見るのではなく、どちらかといえば、その設計者の心理が伝わってくるような生々しさをもった演奏だった。

だからこそ、ブルックナー愛好者の方、とりわけこの作曲家の交響曲は分厚い響きで重みをもって奏でられなければ、といった信条をもつ方々にぜひお薦めしたい。きっと、その柔らかなサウンドから浮き上がる細やかな表情に、こんなアプローチもあったのかと仰天していただけること間違いなし。

同時に、その威圧的な身ぶりゆえに、これまでブルックナーを敬遠していた方にも、熱烈に推薦したい。ヴェンツァーゴのブルックナーからは、しなやかにして緊密に編まれたバッハや、ロマンティズムから超然たる位置に立ったシベリウスの音楽も聴こえてくる。

©Alberto Venzago

今回、読響との初顔合わせとなるヴェンツァーゴが取り上げるのは、交響曲第3番。第3稿での演奏だ。キャリア初期に書かれた交響曲ながら、晩年になってからの改定稿のため、コンパクトにまとめられ、完成度も高い。ブルックナー演奏には一家言あるオーケストラから、この指揮者がいかなる未知数を引き出してくれるのか。

プログラム前半には、バーバーのヴァイオリン協奏曲が演奏される。最近よく国内でも演奏されるコルンゴルトの協奏曲とともに、アメリカ文化が生んだ20世紀のロマン主義音楽を代表する協奏曲だ。牧歌的な叙情性が印象的な作品だが、終楽章では超絶技巧も求められる。

ソリストは、シモーネ・ラムスマ。2017年に読響と初共演し、カンブルランの指揮でチャイコフスキーの協奏曲をダイナミックに弾いたオランダの若手奏者だ。その深々とした歌謡と技巧に大いに期待したい。

シモーネ・ラムスマ ヴァイオリン

ニューヨーク・フィルの音楽監督ズヴェーデンから「世界をリードするヴァイオリニスト」と絶賛され、欧米の著名楽団から次々と招かれているオランダの名花。メヌーイン音楽院と英国王立音楽院で学び、インディアナポリス国際コンクールなど多くのコンクールで入賞。これまでに、マリナー、ヤノフスキ、ピエロフラヴェク、ガーディナー、ネゼ＝セガン、ナガノ、コロフスキらの指揮でロイヤル・コンサートヘボウ管、シカゴ響、ニューヨーク・フィル、クリーヴランド管、フランクフルト放送響、ロンドン・フィル、フランス国立管などと共演。ウィグモア・ホール、カーネギーホールなど、世界の著名ホールでリサイタルを開催。チャレンジ・クラシックスからリリースされたCDも高い評価を得ている。使用楽器は、1718年製のストラディヴァリウス「ムイナルスキ」。

©Otto van den Toorn

読売日本交響楽団 第597回 定期演奏会

2020年4月8日(水) 19時開演

■ 学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。
■ 都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。 ■ 未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時~18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017